



アピールの強い子・弱い子

(ツインズ第34号から)

双子を育てていると、月齢や年齢に関わらず、母親に対して強くアピールする子とそうでない子がいます。

例えば、よく泣く子とおとなしい子、おしゃべりが上手な子とそうでない子、手が掛かる子としっかりしている子。育児の中でお母さんは、この前者にあたる子どもにより多くの目や手を奪われがち。いつも育児にかかわっているママやパパだけでなく、子どもたちの顔を時々見に来るおばあちゃんなども、やはりアピールの強い子に向ける関心が高くなってしまいませんか。

アピールの強い子は、いわば自分の欲求を表現できているわけですから、特に急ぐことでなければ、例え泣きわめいていたとしてもママはそれに振り回されないようにし、落ち着いて要求に応えてあげればいいでしょう。双子は不思議に、「順番ね」とか「交代よ」といった言葉を早く覚えるものです。要求を受け入れながらも、上手にママのペースに引き込めるといいですね。

一方、アピールの弱い子に対しては、特に発育・発達にかかわるサインを見落とさないようにしたいものです。おとなしい性格は、特にたいへんな乳児期にはありがたいのですが、人と関わるのが苦手、というような兆候だとしたら早くキャッチしなければなりません。また言葉の発達する時期、おしゃべりが上手な子が全部先にしゃべってしまい、苦手な子がゆっくり表現する機会を奪ってしまいがちになっていませんか。ママと一対一になる機会を積極的に作り、ゆっくりお話しできる環境を整えて、お話しする楽しさと受け入れられる安心感を感じさせてあげたいものですね。

またしっかりして手がかからないように見えている子も、何かしら心の内面に無理がかかっていることも。例えば幼稚園に入ったばかりの双子。いつも手がかかる甘えん坊の相手の分までしっかりしなければと気を張っていて、お弁当に手をつけられなくなったそう

です。

相手ばかりに周囲の注目がそそがれているのは、アピールの弱い子本人が一番感じていることでもあります。何もかも同じに接することは、それぞれの個性もあってとても難しいことですが、「こちらの子は、放っておいても大丈夫」という気持ちは慎まなければなりません。また子どもたちに接する大人（祖父母や先生、来客など）にそのことを伝え、二人とも努めて同じように関わりをもつようお願いすることも大切だと思います。（編集部）